

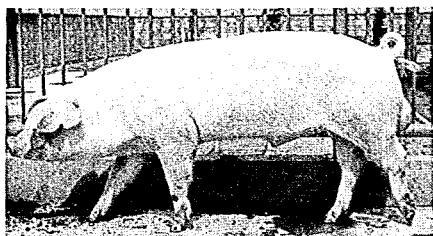
勝ちとつた「優良賞」

畜産センター
と窪田さん
種豚審査会で

持ち主。

昨秋の十月十八日、見附市で「県種豚共進会」が開かれ、畜産センター生まれのトン君が、優良第一席を勝ちとりました。

このトン君、正式な名前がドーナー・オスカー・シルボ・シンチク三十一号というむずかしいナマエ。血統も折り紙つきのオスのランドレース種。審査会では、からだの伸び、後足、おしりの充実がとくに良い点をもらい、現在では二百五十キロという堂々たる体くの

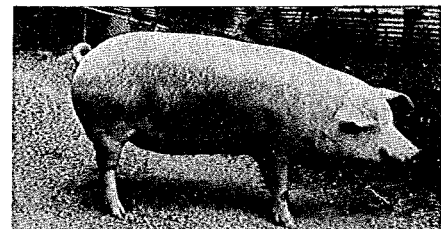


畜産センターのトン君はすでに6,000頭のババ



愛情が大切と窪田さん

「近ごろではエサ代が高くなってねえ。良質な豚を求めて育てているものだから、飼育にも手間がかかり、神経もつかれます。本当に好きでなければ、愛情をもって豚に接しなければ、とても共進会に出すまでに行きません」



バスト143とグラマーな窪田さんのトン嬢

「美人コンテスト」に優勝したというわけ。バスト百四十三のグラマーぶり。やはりランドレース種ですが、正式名前はハノルブル・ルージー・ナガサワ四八三〇号。今ではいっそううみがきまけられ、女ざかりというところですよ。

六千頭のババになっているんですよ。

× × ×

窪田屯次さん（大蔵）所有のメスのトン嬢も、同じ共進会で同じ賞をもらいました。

窪田さんの家では、お父さんの代から豚の飼育をしています。

小鳥を愛する子どもたち

第一小学校が野鳥愛護林校に

「野鳥愛護林校」として、県の指定校となりました。

野鳥の天国、秋葉山の巣箱かけと小鳥の世話が、子どもたちの主なしごとです。先ごろ、すがすがしい朝の秋葉山に、子どもたち自身で作った巣箱を木にとりつけ、のびのびとした子どもたちと小鳥とのふれ合いが、テレビのナマ中継で全国に紹介されたことは耳新しいことですね。



飼育委員の五十嵐さん（左）と小林さん（右）の仲よしで、どうやって解決したと思います？ Aさんは朝早小学校へきて、一人でエサをやったり、そうじをしったりしてから、旅行へ行ったんですよ。

児童会の中には、飼育委員会が設けられ、校庭に飼っている小鳥や、県から贈られたという「キンケイ」の世話をしています。この飼育委員には、希望者が殺到。現在八十人という大世帯だそうです。



巣箱づくりに励む子どもたち

お買物、ご用命は市内で

謹賀新年
パックタイマーつき
デラックスエレクトリック

オシロイジョー、完全アフターサービス

株井浦電気商会

本店 新潟市本町2丁目 TEL (0441) 4141
新潟店 新潟市山148 TEL (0441) 40522

あけましておめでとう
ございます
新味割烹・食堂

株式会社 脊雨

新潟市本町一(駅前)
☎ (2) 1600 特